

学力調査等の状況

・基礎的な問題については学力の定着がみられる。特に算数については、ほとんどの項目について東京都、全国の平均を超えていた。表から必要な情報を読み取ったり、図形の変形をしたりなど、複雑な思考が必要となるものについては、正答率が下がったり、無解答率が多くなったりする傾向がある。

見えてきた課題

・算数科において、情報を読み取ったり、変形したりなどの複雑な思考が必要な問題については無回答率が上がるなど、苦手意識の高い児童が多い。国語科では、原因と結果を関係付けたり、自分の考えを記述したりする問題について、無回答率が高い傾向があった。以上のことから、やや複雑な思考が必要な問題に挑戦し、粘り強く取り組ませていく必要があると考える。

授業をデザインする8つの取組について

見通しをもたせる導入	児童が何を学ぶか、どのように学ぶか、単元(本時)の見通しをもてるように、学習の流れやめあてを提示したり、関心が高まるようにする。
振り返りの設定	児童の言葉で自己評価をすることで、自分の考えを再構築したり、次時への主体的な学びへとつなげたりする。
ICT機器の活用	タブレット端末のスプレッドシートやスライド、ジャムボードを活用することによって、児童の意見の共有や集約を行い、自己の考えを伝えたり、他者の考えを認め合えるようにする。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が主体となって学習をすすめることができるように、単元の指導計画を工夫する。 ○多様な意見の共通点を意識しながら対話活動を行うことで考えを広げていくことができるようにする。 ○授業のまとめで振り返りを行ったり活用的な課題に取り組みせたりすることで自分の考えの深まりを実感できるようにする。 ○発達段階に応じた話型を指導し、互いの考えを伝え合うことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題や興味関心と関連付けた学習課題を設定する。また、学びの手順を見通せるように学習計画を立て、ゴールまでの流れを共有する。 ○互いの思いや考えを受容する雰囲気を作る。 ○1時間ごとに学習活動の目当てを板書で示し、時間の最後にそのめあてにそった振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の発言や思いを集約しながら学習計画を立てる。また、単元の見通しをもたせる。 ○話し合いの話型を指導する。スプレッドシートやジャムボードを活用して、互いの意見の共通点や相違点を認め合う姿勢を養う。 ○授業のまとめで、学習したこと、分かったこと等を自分の言葉で振り返ることで、自己評価と次時への学びにつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○感想や疑問などをもとに単元の指導計画を設定したり課題解決までの手立てを考えさせたりする。 ○言語感覚を育て、時や場面にに応じて適切に考えを伝え合ったり、互いの意見を尊重し合う力を身に付けさせたりする。スライドで資料を作成して表現する力を育てる。 ○自己評価シートを作成し、前時の学習の振り返りと比較しながら本時の振り返りを行う。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習問題を追求・解決する問題解決的な学習を進める。 ○考えたことや判断したことを適切に表現する力を養う。 ○自分の考えを深めたり広げたりできる交流の場をもつ。 ○資料や地図から必要な情報を読み取る力を養う。 	<p>(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活科deha,身の回りの地域の特色や人々の生活に興味をもち、分かったことや気付いたことをまとめさせる。 ○地域の人々との関わりを通して、身の回りの社会的事象に対して関心をもたせる。 ○児童相互の交流を深め、自分の考えを、異なる意見や視野から広めたり深めたりする学習過程を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象の特色や社会にみられる課題を把握して、その解決に向けて選択・判断し適切に表現する学習を進める。 ○身近な地域や都道府県の特徴を人々の生活との関連を踏まえ、調査活動や地図帳、各種の具体的資料を通して必要な情報をまとめさせる。 ○諸課題について多角的に捉え、児童相互の交流を深め、考えを広げたり、深めたりする学習過程を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちでつくった学習問題を確認したうえで、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現する学習を進める。 ○社会的事象を的確に観察、調査したり、各種の資料を効果的に活用したりして、必要な情報をまとめさせる。 ○児童相互の交流を深め、広い視野から考えを広げたり、深めたりする学習過程を計画する。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な求め方を考え、共通点や相違点を比較することで考えを広げていくことができるようにする。 ○学校でノート指導の流れを統一し、児童自ら学習を振り返ることができるようにする。 ○理解を深めるために視覚的に捉えられやすい教材や教具を工夫する。 ○ペーシックドリルを活用し、基礎基本の定着を図る。 ○デジタル教科書を活用し、視覚的、体験的に学習を深めていくことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決に際して、一人一人が意欲的に取り組み、「できた」「分かった」という実感をもち、それを簡潔に表現したり考察したりする力を養う。 ○ノート指導については、学習の流れが分かるノートづくりをする。 ○navimaを継続的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決に際して、一人一人が考えをもち、どのように答えを導き出したかを、式や図・表、デジタル教科書などを活用しながら分かりやすく説明する表現力を高める。解決の過程や結果を多面的に捉え考察する力を養う。 ○ノート指導については、学習の記録と振り返り、既習事項を見直して自らの考えを練るノートづくりをする。 ○ペーシックドリルやnavimaを継続的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決に際して、一人一人が考えをもち、どのように答えを導き出したかを、式や図・表などを活用しながら人にも分かりやすく説明する表現力を高める。解決の過程や結果を批判的に考察する力を養う。 ○ノート指導については教科書にある「算数マイノート」を活用し、学習を記録・整理し考えを深めたり新しいものを生み出したりすることにつなげていく。 ○ペーシックドリルやnavimaは、日常の授業で継続的に活用し、学期末に診断テストを実施する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○自然の事物・現象に親しむ活動を通して、児童が自ら問題を見出し、主体的に問題解決しようとする事ができるような発問、展開の工夫をする。 ○各学年における問題解決の力の重点(3年:問題の見出し、4年:予想・仮説を立てる、5年:解決方法の発想、6年:妥当な考え方を意識した単元の計画を立てる。 ○理科の見方・考え方を養うための授業展開の工夫を行う。 	<p>(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活科の時間等において植物や昆虫と触れ合うことを通して自然に対する興味や関心をもたせる。 ○生き物の観察を行う中で、成長や様子の変化を捉えることができるような発問を行う。また、捉えた変化を自分の言葉で説明する活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然の事物、科学的な事象に親しむ活動を通して、児童自ら問題を見出し、問題解決できるよう、発問・展開を工夫する。 ○課題を設定し、問題解決する過程において、予想したり実験の結果をまとめ、そこからどのようなことが考察されるかを自分の言葉で説明したりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が科学的な事象に対して自ら疑問をもち、主体的に活動を行うことができるような授業展開を行う。 ○比較する内容を整理し、実験を行うための条件制御を児童が自ら考えて行動する事ができるように発問や授業展開を工夫する。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつ。 ○自分自身や生活について考えさせるとともに、その過程において生活上に必要な習慣や技能を身に付け、生活の基礎を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りの地域の特色や人々の生活に興味をもち、分かったことや気付いたことをまとめさせる。 ○植物や昆虫と触れ合うことを通して自然に対する興味や関心をもたせる。 ○児童相互の交流を深め、異なる意見や視野から自分の考えを広めたり深めたりする学習過程を計画する。 		
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> ○言語活動や協働的な学習の充実を目指し、設定する課題を工夫し、対話によって自分の考えや音楽的な見方・考え方を広げたり深めたりする学習活動を積極的に取り入れる。 ○発表する活動では、児童が思いをもち、それらを言葉と音楽で表現することができるよう指導する。また、演奏を聴き合うことを通して、互いを認め合う心や自尊心を育む。 ○学年の実態に応じてICT機器を活用した資料提示や情報共有を行い、児童が見通しをもち、進んで学習に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の考えを広げるために、ペア活動を意図的に取り入れる。 ○学習や朝会では、気持ちを込めて歌や演奏に取り組む姿勢を育む。 ○児童が見通しをもち、進んで学習に取り組むことができるように、学習に応じてICT機器を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ペア活動やグループ学習を意図的に取り入れ、児童の思いや考えが広がることを目指している。 ○学習に応じてICT機器を活用し、児童が見通しをもち、進んで学習に取り組むことができるようにした。 ○我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ学習を意図的に取り入れ、児童の思いや考えが広がり深まることを目指している。 ○連合音楽会に向けて、音楽に思いをもち、それらを聴く人に伝えようという思いをもって演奏に取り組ませている。 ○卒業式等に向けて、音楽に思いをもち、それらを聴く人に伝えるために、表現の工夫に取り組んでいる。 ○どの学習でも、ICTを活用した学習支援を行い、児童が見通しをもち、進んで学習に取り組むことができるようにしている。
図工科	<ul style="list-style-type: none"> ○表現の活動では、造形遊びをする活動と絵や立体、工作に表す活動のそれぞれの活動を通して、思考力、判断力、表現力や技能を身に付けられるよう使う素材を工夫する。 ○一人一人が感性や想像力を働かせて、様々なことを感じ取るために、児童自身の視覚や触覚などの感覚や行為を通して、主体性をもった理解につながるよう、創作時間を十分にとる。 ○自分たちの作品や親しみのある美術作品などを見合う鑑賞活動を通して、自分の見方や感じ方を深め、思考力・判断力・表現力を高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞会では、友達と作品を見合い、感想を言い合ったり、教え合ったりする活動を取り入れる。 ○題材のはじめに参考作品を見せたり絵本の読み聞かせをしたりして、活動に見通しをもたせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国の名画を鑑賞材料として取り入れ、じっくりと見たり、体を使って表したりすることで慣れ親しむ授業を行う予定。 ○鑑賞会では、友達と作品を見合い、感想を言い合ったり、教え合ったりする活動を取り入れる。 ○授業のはじめにめあてと流れを確認し、児童が見通しをもって活動できるよう心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国の名画を鑑賞材料として取り入れ、絵画についての知識や見方を深める活動を予定している。 ○鑑賞会では、友達と作品を見合い、感想を言い合ったり、教え合ったりする活動を取り入れる。 ○授業のはじめにめあてと流れを確認し、児童が見通しをもって活動できるよう心がけている。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ○家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に着ける。 ○日常生活の中から問題を見出し、課題を設定し、主体的・対話的な活動を通して様々な解決方法を考え実践することで、深い学びに結び付くようにする。 ○家庭生活を大切にすることを育み、家庭や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートやICTを活用して学習課題に取り組みせ、生活に必要な知識や技術を習得させる。 ○家庭科で身に付けた知識や技能を総合的に活用し、課題解決に粘り強く取り組ませる。 ○自分の生活を見つめ直し、自分の家族は何を困っているのか、地域のために自分には何ができるのかを考えて課題を立て、実行できるように授業を組み立てていく。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の中で、個人の思考を全体で共有する時間、学習を振り返る時間を作り、自分自身の運動の仕方を見つめ直し、その後の運動に生かせるようにする。 ○一人一人がめあてをもって運動に取り組めるように、学習カードやクロムブック等を利用し意欲を高める。 ○めあての達成に向けて、運動の仕方や場、練習方法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間、運動のコツや友達の良いところを共有し、それらを生かしてもう一度運動する時間を設定する。 ○学習の初めにはめあてを示し、中間評価や振り返りの時間にも確認することでめあて達成への意識を高める。 ○誰でも楽しく運動でき、めあてが達成できるよう、易しいルール・場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間児童同士で良い動きを伝え合ったりアドバイスし合ったりした後、それらを生かしてもう一度運動する時間を設ける。 ○学習全体のめあてに加え、個人のめあても考え、それに対する振り返りを行うよう指導する。 ○自分の課題に応じて場を選び、運動の仕方や練習方法を工夫できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間、チームで作戦を立てたり、より良い動きをするためにはどうすればよいか話し合ったりする時間を設け、それらを生かして運動するようにする。 ○学習全体のめあてに加え、個人・チームのめあてや作戦も考え、それに対する振り返りを行うよう指導する。 ○自分の課題や状況に応じて場やルールを設定できるようにして、運動の仕方や練習方法を工夫できるようにする。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○日本語と外国語の違いに気付き、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。 ○身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、話順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。 			<ul style="list-style-type: none"> ○外国の文化を理解するとともに、日本の文化について深く理解し、それを伝えようとする態度を育てる。 ○英語で会話をする必要性のある場面を設定し、1時間の授業の中でたくさん英語を使わせるようにする。 ○ICTを効果的に活用して、言語活動を通して自己表現ができるようにする。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が探究的な見方・考え方を働かせることができるように1年を通した課題設定を行う。「課題設定」「情報収集」「整理分析」「まとめ・表現」という一連の学習過程を繰り返す発展的な学習を進める。 ○ICT機器を活用して学習を進め、「まとめ・表現」の学習段階では、プレゼンテーション資料(スライド等)の作成を行う。 ○「Google for Education」を積極的に活用し、主体的・対話的な深い学びの実現を目指す。 		<ul style="list-style-type: none"> ○調べ学習をして分かったこと等を共有させ、次回の調べ学習で活用できるようにする。 ○提示された資料を基に、自ら課題を見付け、調べ方を考え、調べて発表する活動を行う。 ○集めた情報から自分の必要なものを取捨選択することを指導する。 ○上記の項目についてICTを活用し、学習を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集めた情報を分類・整理する時間を確保する。(思考ツールの活用) ○時間ごとに振り返りをさせ、計画の修正が必要かどうかを考えさせる。 ○身近な話題や児童の経験から興味・関心をひくような教材を設定する。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの考えを認め合えるような、学級の温かい雰囲気づくりに努める。 ○構造的な板書を事前に計画し、授業に臨む。また、児童の発言を整理しながら板書し、思考を整理していく。 ○自分の考えを伝えるために、ペア、グループ、全体等、話し合いの形態を工夫する。また、ハンドサインを活用させ、一人一人が自分の考えを表現できるようにする。 ○振り返りでは、自分の考えを整理する時間を十分にとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単語だけでなく、どうしてそう考えたのか適宜問いかけ、そうした考えに至った過程についても言語化させる。 ○役割演技や動作化なども行いながら、教材文を自分の事として捉えさせる。その際、葛藤する登場人物の思いを想像させる。 ○振り返りの時間を必ず確保し、自分事として結びつけることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材提示の仕方を工夫し、児童が教材に深く入り込めるようにする。 ○児童一人一人の発言を受け止め、共感しながら授業を行い、板書に工夫しながら思考を整理していく。 ○話し合いを充実させるために集団の数や方法を工夫したり、自分や相手の立場を視覚的に共有する工夫をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発言しやすいように導入を工夫したり、どのような発言も受け止める姿勢で授業を進めたりする中で、児童が素直な気持ちを言えるようにする。 ○道徳的価値について考えやすいよう、色分けや分類をして板書を構造的におこなう。 ○ペアやグループで話し合う場面を多くし、多様な考えに触れられるようにする。 ○振り返りの言葉は内容によって、伝え合う時と、心にとどめておく時と分けるようにする。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○学級会の指導方法や、児童の取り組み方を広め充実させていく。 ○学校行事では、一人一人がめあてをもって取り組むとともに活動を振り返り、児童自身が成長を味わえるようにする。また、学級活動や児童会活動を生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級生活を楽しくするために、生活科など他教科と連携し、児童の意欲を尊重し、学級会に生かす。 ○行事ごとにめあてカードや振り返りカードを用いることで主体的に学校行事に関われるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しい学級生活をつくれるように学級会カードや学級掲示板を活用し、意見の交流ができるようにする。 ○地域に貢献しようとする気持ちを高めるために、効果的に社会体験を行っていく。 ○行事ごとにめあてカードや振り返りカードを用いることで主体的に学校行事に関われるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常での学級や学校生活に主体的に課題を見出し、共有ができるように学級会カードや学級掲示板を活用する。 ○委員会活動では、見通しをもちながら活動に参画できるように年間の計画を作成し、役割分担を行う。 ○学校行事や異学年交流の時間をより充実させ、異学年との望ましい人間関係を築く。
外国語活動・英語活動	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が外国語で表現することの楽しさを実感して、すすんでコミュニケーションを図ろうとするために、児童の興味関心や発達段階に応じた言語材料を取り上げたり、言語活動を行ったりする。 ○グローバルな見方・考え方ができるようにするために、自国と比べながら異文化を取り上げていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ○音楽やリズムを取り入れて、体で英語を覚えられるようにしたり、イラストなど視覚的資料を充実させて、英語での表現を身に付けさせたりする。 ○1時間の授業の中で英語で会話する活動をいくつか設定し、楽しみながら、たくさんの英語を使わせるようにする。 ○児童の「やりたい・言いたい」思いを基に学習計画を立てる。また、単元の見直しをもたせる。 	